

史跡利神城跡整備基本計画策定専門委員会 会議議事録【概要版】
(令和5年度 第1回)

日 時	令和5年(2023)9月27日(水) 委員会 13:00~16:00
場 所	兵庫県立歴史博物館会議室
出席者	<p><委員>※敬称略 任期：令和5年9月27日～令和8年3月31日</p> <p>小野 健吉 大阪観光大学 教授 (欠席)</p> <p>北垣 聰一郎 金沢城調査研究所 名誉所長</p> <p>西形 達明 関西大学 名誉教授</p> <p>福井 亘 京都府立大学大学院 教授</p> <p>水島 あかね 明石工業高等専門学校 准教授</p> <p>藪田 貫 兵庫県立歴史博物館 館長</p> <p>山上 雅弘 兵庫県立考古博物館 名誉学芸員</p> <p><オブザーバー></p> <p>大本 朋弥 兵庫県教育委員会 文化財課 文化財班 主任</p> <p><アドバイザー></p> <p>安田 邦男 兵庫県みどりのヘリテージマネージャー会但馬 理事長</p> <p>鳥越 茂 兵庫県みどりのヘリテージマネージャー会但馬 理事</p> <p><コンサルタント></p> <p>奥村 信一 (株)都市景観設計 代表取締役</p> <p>中野 浩幸 (株)都市景観設計 取締役</p> <p>鈴木 幸一朗 (株)都市景観設計</p> <p><事務局></p> <p>浅野 博之 佐用町教育長</p> <p>宇多 雅弘 佐用町教育委員会 教育課長</p> <p>間嶋 節夫 佐用町教育委員会 教育課 企画総務室長</p> <p>中村 剛彰 佐用町教育委員会 教育課 企画総務室長補佐</p> <p>篠倉 崇泰 佐用町教育委員会 教育課 企画総務室 文化財係長</p> <p>谷口 俊廣 佐用町教育委員会 教育課 事務員</p>
議事等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委嘱状交付 2. 開会 <ol style="list-style-type: none"> (1)あいさつ (2)出席者紹介 3. 座長選出 4. 報告及び議事 <ol style="list-style-type: none"> (1)史跡利神城跡保存活用計画策定後の経過報告 【資料1、資料2、資料6】 (2)史跡利神城跡整備基本計画の策定体制について 【資料3-1、資料3-2】

	<p>(3)調査結果報告</p> <p>①史跡利神城跡現況植生調査の結果報告 【資料 4】</p> <p>②史跡利神城跡雨水排水調査の結果報告 【資料 5】</p> <p>(4)史跡利神城跡整備基本計画策定の主要検討課題及び調査計画等について</p> <p>①史跡利神城跡整備基本計画の目次構成(案)及び現状と課題 【資料 3-3】</p> <p>②史跡利神城跡整備基本計画 整備方針と主要検討課題(案) 【資料 3-4、資料 3-5、資料 7】</p> <p>(5)質疑応答及び意見交換</p> <p>(6)その他</p> <p>①第一回策定委員会(全体会)の日程について</p> <p>②その他</p> <p>5. 閉会</p>
配布物	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局提示資料(日程、出席者名簿、委員会資料) ・北垣委員提示資料

— 議事内容 —

1. 史跡利神城跡保存活用計画策定後の経過報告 (資料 1、2、6 説明)

- ① 防災整備工事を令和 2~4 年度まで施工し、崩落防止ネットの施工や法面保護工事などを行った。
- ② 山城ガイドによる利神城跡への登山を令和 3 年度から開始した。
- ③ 令和 5 年度から利神城かわら版を月に一回発行している。現在は町のホームページにのみ掲載。

・専門委員からの意見

- ① かわら版について、高齢の方もよく利用すると考えるため、掲示板などのアナログな方法での利用も検討されたい。(水島委員)
- ② 収入をつくることによって整備の幅を広げることが出来るので予算的なことをもう少し考えた方が良いか。(山上委員)
- ③ これから史跡整備を継続させるにはやはり収入が必要であり、ただ史跡を利用するだけではなく、収入がある状態でその収入を整備につないでいかなければ運営は継続できないのではないか。そのあたりもこれから考えるべきだ。(福井委員)
- ④ 入城料 3,000 円の内訳と、保険料をさらに入れた場合の金額はどうか。(水島委員)

↓

入城料の内訳と保険料込みの金額については後日調査ののち回答。(事務局・中村)

2. 史跡利神城跡整備基本計画の策定体制について (資料 3-1、3-2 説明)

- ① 11 月に開催される策定委員会の全体会については地元委員及び関係者は 7 名参加。

3. 調査成果報告

(1) 史跡利神城跡現況植生調査について (資料4 アドバイザー・鳥越説明)

- ① 天守丸のソメイヨシノは樹勢が衰えており、近いうちに枯死する可能性が高い。そのため近辺に生息する鳥類に、周辺のヤマザクラの種子を天守まで運んでもらいそれが育つように環境整備を行うのが良いと考える。
- ② 天守丸にはササが繁茂しており雨水による石垣の崩落をササが防いでいるように感じている。そのため整備するうえで有益な植生を見極めることが大事ではないかと考える。
- ③ 本丸北区では石垣の上に樹木が多く繁茂しており、以前雑木をすべて伐採したがそれらが回復してまた石垣がみえないぐらい繁茂している。
- ④ 本丸北区東の犬走部分にはシロダモが多く生育しており、斜面を保護する役割を持っている。しかし大きく成長すると石垣がみえなくなってしまうため斜面を守りながら石垣も見えるような処置をする必要がある。
- ⑤ 二の丸西区では城壁に生育している樹木は、ほとんどがコウゾやウツギといったあまり大きく成長しない樹種であった。
- ⑥ 二の丸東区では東の斜面にケヤキが多く生育し、斜面にある20~30cm程の石礫をケヤキの根系が囲い込むようにして落石を防いでいた。
- ⑦ 三の丸ではアラカシが登山道の付近に密集しており林床が日陰になっている。そのため草本類がほとんど生育しておらず林床に少し日光が入るようにしなければ斜面が崩れやすくなる可能性がある。
- ⑧ 馬場では間伐の際、尾根を保護する目的でシロダモを何本か残している。
- ⑨ 大坂丸では平成13年に全体的な樹木の伐採が行われた。その後センダンが入り込み現在ではセンダンの樹林のようになった。その影響で石垣が見えなくなっている。
- ⑩ 全体的に外来種であるシンジュが急速に拡大している。シンジュは生育速度が早いので早急に駆除を行わなければならない。さらにセンダンやシロダモも同じく生育速度が早く適切な管理が必要になるため、城の石垣を見せる上では今後植生の管理が大きなポイントになると考える。特に利神城跡の古図のような昔の里山に近い環境に戻していくのが良いかは今後委員会で議論しなければならない。

・専門委員からの意見

- ① ナラ枯れを考えた管理が必要ではないか。(福井委員)
- ② 整備を行う中で石垣を見せることが大きなポイントではないか。(福井委員)
- ③ 横山氏提供の写真にあるヤマザクラは自然に増えていくものであるため、増やす場合は無理に人の手で植える必要はないと考える。その場合、種子散布者の天敵の生息域から、古図に記された位置あたりにヤマザクラがある風景を想定するのが良いと考える。そうすれば植生のコントロールが今後の大きなポイントになるのではないかと(福井委員)
- ④ これからは文化財に充てられるお金は限られてくるため他からも補助を受けられるようにすべきだろう。その中で今年の3月に発布された生物多様性国家戦略に、里山管理という観点から関わっていくことができれば環境省からも補助を受けることができるのではないかと(福井委員)

- ⑤ 石垣の上の樹木はこの山本来の植生に近いと感じる。この山本来の植生を想定し、直接斜面に影響を与える樹木は管理しながら、山城の周囲は本来の植生に戻すというあまり手間のかからない整備の在り方もあると感じた。長期的な視野に立ち、整備計画の中で長期計画として進めていく方法もあるのではないかと。(山上委員)
- ⑥ 全国的にみても山城の整備計画の中で 50 年から 100 年といった長期的に山全体の管理について計画したものはなかったため、利神城で行うことで全国発信ができるのではないかと考える。ぜひ検討していただきたい。(山上委員)

(2) 史跡利神城跡雨水排水調査について (資料 5 説明)

・専門委員からの意見

- ① 石垣の根の部分を守り崩壊を止めることが重要である。(北垣委員)
- ② 従来の排水施設は近年多発している線状降水帯による豪雨には耐えられないため新たな排水施設を早急に設ける必要がある。(北垣委員)
- ③ 天守の上部に水を入れない処置が必要。そして天守からの水を二の丸と三の丸で排水するのが重要ではないか。(西形委員)
- ④ 様々な方面に利神城跡の現状を共有できれば教育委員会の負担が減り他のことにも対応しやすくなるのではないかと(水島委員)
- ⑤ 雨水排水の問題については都市計画や、農林、農水関係の部署も関わってくることが考えられるため、他の部署とうまく連携しながら計画を進めていかなければならないのではないかと。雨水環境を整備するうえでそのあたりをもう少し考えていきたい。(福井委員)

4. 史跡利神城跡整備基本計画策定の主要検討課題及び調査計画等について

(1) 史跡利神城跡整備基本計画の目次構成(案)及び現状と課題(資料 3-3 説明)

(2) 史跡利神城跡整備基本計画 整備方針と主要検討課題(案)(資料 3-4、3-5 説明)

・専門委員からの意見

- ① 整備計画案の内容に利神城ファンの育成といったソフト的な要素を計画に含むのであれば、もう少し目次案へ反映されてもいいのではないかと。(水島委員)

↓

整備計画については、史跡にあった整備のやり方を記すべきであり、文化庁の考え方も同様である。事務局等から地元の方や有識者に提案し、意見をいただきながらブラッシュアップしていけばよいと考えている。(オブザーバー・大本)

- ② 整備計画にあった地図について、専門的であり一般の方が見た際にどう関わることができるかが分かるものを意識していただきたい。(水島委員)
- ③ 利神城跡を支援してくれる支援団体を育成し、最終的には団体を自立させ、団体の意見を計画に組み込んでいく。そのようなことが計画に盛り込まれていれば良いと思う。(水島委員)
- ④ 計画を決める段階から住民の方を巻き込んだ形で成功した団体があるので、是非参考にされたい。(水島委員)

- ⑤ 人手不足が深刻に思える。しかし県内の中世の山城や国指定史跡の山城では、近い環境の史跡が多く住民の関心も高い。これからは町の中だけで整備を考えるのではなく佐用町には県内の史跡との連携を考えたらどうか。また県の方でもそのための支援を願いたい。(山上委員)
- ⑥ 5章 現状と課題については最初の方で概要をまとめておいた方が見やすくなるのではないか。(福井委員)
- ⑦ 香川県の屋嶋城の事例から、本来の石材を集めることが困難なら、ある程度は別の石材で代用してもいいのではないか。これから検討していきたい。(福井委員)

・事務局からの意見

- ① 山上委員の意見のように、山城の周囲を本来の植生に戻すという手のかからない管理方法というのも一つの視点であり、そのあたりの管理運営の方向性を決めたいうえで、管理運営に係る人手の確保を議論していきたい。(事務局・谷口)

5. 石垣の耐震診断に関する指針・要領(案)の公開について、西形委員による説明(資料7 説明)

- ① 石垣管理については変形が著しい、石材の抜けがあるといった危険箇所以外は現状の維持を基本とした方が良い。
- ② 文化庁の石垣診断には目視で石垣の状態を判断する予備診断がある。活用方法を見直し、立ち入り制限を設ければ安全性確保の観点から一応の耐震対策が完了したとみなされる。
- ③ 予備診断を行いその結果を共通情報、共通認識として、危険な石垣に対し活用の見直しを図りそこで活用方法を議論することが大切なのではないか。
- ④ 利神城でみられる石垣の状態での安全性を客観的に評価することはかなり難しいため、それより前の段階を維持するように頑張っていく方が良いと考える。

6. 石垣秘伝書に見る勾配の視覚化と相互比較について、北垣委員による説明(北垣委員提示資料)

- ① 利神城を整備するうえで重要なのは、かけがえのない本物を守ること。そのために価値を考えることが必要ではないか。私は先人たちが残した伝統技術、そして石垣であれば土地の良さも含まれると考える。

そして今、先人たちが遺構に残した伝統技術や土地の良さといった、利神城の良さは野生動物などの被害により今失われようとしている。ではその良さを再確認し守っていくにはどうすればよいか。私は伝統技術が活発であった江戸時代に注目した。そして石垣についての江戸時代の技術書を比較することで、勾配や、石を積む原則の変遷がうかがえた。

であればその変遷の過程を見て利神城築城に携わった人々の考え、そしてそれを踏まえた利神城の良さを再確認でき後世へと伝え守っていくことができるのではないか。

- ② 以上のことを踏まえて皆さまが写真や現地で見ると石垣を見た際、少しでも見方が膨らんでくれることを願う。(北垣委員)

7. 専門委員の意見を総括して

今日は整備基本計画の検討課題や調査計画を議論していただいた。文化庁の石垣耐震診断指針があることや指針に対する考え方もご意見いただいた。歴史的な石垣の考え方についても北垣委員からお聞きした。予備診断を行って石垣の状態を共有し、どう石垣を活用していくのか、そして石垣の価値をどう守っていくかについて議論していくことが重要ではないか。これらをどう合わせてゆくかを考えさせていただきたい。(藪田委員長)

8. 次回日程について

- ① 次回委員会は全体会で11月27日午後1時半より佐用町役場で開催。
- ② 次回の専門委員会は来年の2月～3月を予定。



委員会状況